

TAC 簿記検定講座

日商簿記1級オンラインセミナー

「CVP分析（損益分岐点）について」

担当講師：岡島 貴枝

2023年7月2日（日）14:00～15:30

共催：京都商工会議所・大阪商工会議所

財務会計と管理会計

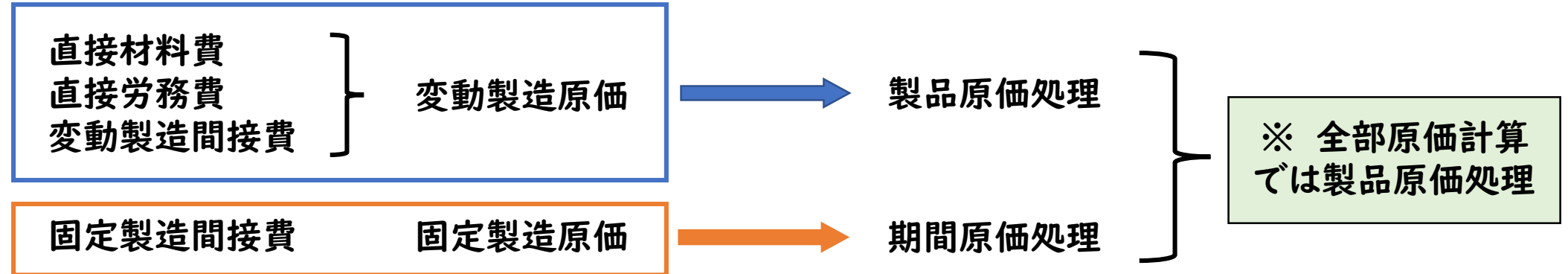
企業会計・・・企業の活動に関するお金の動きを報告する

【財務会計】	《管理会計》
企業外部のための会計	企業内部のための会計
外部報告目的	内部報告目的
株主、その他の利害関係者に対して財務諸表を作成し報告する	経営に役立てるため経営者や業績管理者に対して報告する
損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書等をルールにもとづいて作成する	企業の任意で作成されるため、ルールはない

原価を集計する範囲の違い I

【財 務 会 計】	《管 理 会 計》
全 部 原 価 計 算	直 接 原 価 計 算
すべての製造原価を製品原価として計算	製造原価のうち変動費（＝変動製造原価）のみを製品原価として計算

《管 理 会 計》 直 接 原 価 計 算



原価を集計する範囲の違い II

全部原価計算

すべての製造原価を製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動費 (変動製造原価)	製品原価
	直接労務費		
	変動製造間接費		
	固定製造間接費	固定製造原価	

直接原価計算

製造原価のうち変動費 (= 変動製造原価)
のみを製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動費 (変動製造原価)	製品原価
	直接労務費		
	変動製造間接費		
	固定製造間接費	固定製造原価	A

製造原価ではあるが
【固定製造間接費】は
『期間原価』として計算する

A：固定製造原価は『期間原価』

『期間原価』：会計期間の費用

1. 原価を集計する範囲の違いと『全部原価計算の損益計算書』との関係

全部原価計算
すべての製造原価を製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動費 (変動製造原価)	製品原価	販売分	売上原価(P/L 費用)
	直接労務費				
	変動製造間接費				
	固定製造間接費	固定製造原価		未販売分	期末製品(B/S 資産)

全部原価計算のP/L

売	上	高
売	上	原 価
売上総利益		
販売費および一般管理費		
営業利益		

→ 販売分
→ 販売分
→ 販売分
→ 発生分

原価を集計する範囲の違い II

全部原価計算

すべての製造原価を製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動費 (変動製造原価)	製品原価
	直接労務費		
	変動製造間接費		
	固定製造間接費	固定製造原価	

直接原価計算

製造原価のうち変動費 (= 変動製造原価)
のみを製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動費 (変動製造原価)	製品原価
	直接労務費		
	変動製造間接費		
	固定製造間接費	固定製造原価	A

製造原価ではあるが
【固定製造間接費】は
『期間原価』として計算する

A：固定製造原価は『期間原価』

『期間原価』：会計期間の費用

2. 原価を集計する範囲の違いと『直接原価計算の損益計算書』との関係

直接原価計算

製造原価のうち変動費（＝変動製造原価）のみを製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動費 (変動製造原価)	製品原価	販売分	変動売上原価(P/L 費用)
	直接労務費			未販売分	期末製品(B/S 資産)
	変動製造間接費				
	固定製造間接費	固定製造原価	A	固定費(P/L 費用)	

直接原価計算のP/L

売上高	→ 販売分
変動売上原価	→ 販売分
変動製造マージン	→ 販売分
変動販売費	→ 販売分
貢献利益	→ 販売分

固定費		→ 発生分
	A 固定製造原価	
	固定販売費	
	固定一般管理費	
営業利益		

まとめ

固定製造原価（＝固定製造間接費）が含まれている項目の違い

全部原価計算のP/L

すべての製造原価を製品原価として計算

売	上	高
売	上	原 価
売上総利益		
販売費および一般管理費		
営業利益		

→ 販売分
→ 販売分
→ 販売分
→ 発生分

直接原価計算のP/L

製造原価のうち変動費のみを製品原価として計算

売	上	高
変 動	売 上	原 価
変動製造マージン		
変 動	販 売	費
貢献利益		
固 定 費		
固定製造原価		
固定販売費		
固定一般管理費		
営 業 利 益		

→ 販売分
→ 販売分
→ 販売分
→ 販売分
→ 販売分
→ 発生分

3. 直接原価計算の応用

CVP分析

営業量 (Volume) が変化したときに、原価 (Cost) や利益 (Profit) がどのように変化するかを分析するもの。
予算編成の一環として行われる、おおまかな利益計画の設定ツールとして利用。

直接原価計算のP/L

CVP分析

売 上 高	売 上 高	(1 0 0 %)
変 動 売 上 原 価	変 動 費	(変 動 費 率)
変 動 製 造 マージン		
変 動 販 売 費		
貢 献 利 益	貢 献 利 益	(貢 献 利 益 率)
固 定 費	固 定 費	
固定製造原価		
固定販売費		
固定一般管理費		
営 業 利 益	営 業 利 益	

変 動 費 率 : 変 動 費 ÷ 売 上 高

貢 献 利 益 率 : 貢 献 利 益 ÷ 売 上 高

CVP分析

営業量 (Volume) が変化したときに、原価 (Cost) や利益 (Profit) がどのように変化するかを分析するもの。

予算編成の一環として行われる、おおまかな利益計画の設定ツールとして利用。

【問題 ①】(2級)

当社では、下記に示す製品を製造・販売している。製品1個あたりの販売価格と変動費は下記のとおりである。また固定費は190万円である。

	製品
1個あたりの販売価格	@2,500円
1個あたりの変動費	@1,500円

損益分岐点の売上高を求めなさい。

【問題 ①】

当社では、下記に示す製品を製造・販売している。製品1個あたりの販売価格と変動費は下記のとおりである。
また固定費は190万円である。 損益分岐点の売上高を求めなさい。

1個あたりの販売価格 @2,500円
1個あたりの変動費 @1,500円

【問題 ①】解答・解説

STEP1 売上高(金額)を求めるため、売上高を S において直接原価計算方式の損益計算書を作成する。

単位：円			(直接原価計算方式) 損益計算書
売上高	@2,500	基準=100%=1.0	(1.0) S
変動費	@1,500	@1,500÷@2,500=0.6	0.6 S
貢献利益	@1,000	(1.0) - 0.6S = 0.4	0.4 S
固定費		売上高に占める 変動費、貢献利益の割合は一定 という条件で計算する	1,900,000
営業利益			0.4 S - 1,900,000

【問題 ①】解答・解説

STEP2 Sについて解く

単位：円	(直接原価計算) 損益計算書
売上高	(1.0) S
変動費	0.6 S
貢献利益	0.4 S
固定費	1,900,000
営業利益	$0.4 S - 1,900,000$

STEP2 “損益分岐点の売上高”とは
『営業利益=0』となる売上高

$$\begin{aligned} 0.4 S - 1,900,000 &= 0 \\ 0.4 S &= 1,900,000 \\ S &= 4,750,000 \end{aligned}$$

損益分岐点の売上高は、4,750,000円

Ⅰ級では製品の種類が複数となる

【問題 ②】

当社では、製品Aと製品Bを製造・販売している。各製品1個あたりの販売価格と変動費は下記のとおりである。また固定費については、両製品に個別に発生する固定費はなく、両製品に共通して発生する固定費は190万円である。

	製品A	製品B
1個あたりの販売価格	@2,500円	@2,000円
1個あたりの変動費	@1,500円	@1,400円

製品Aと製品Bの売上高が1:4の割合となるように販売するものとして、製品Aと製品Bの損益分岐点の売上高を求めなさい。

【問題 ②】

当社は、製品Aと製品Bを製造・販売している。各製品1個あたりの販売価格と変動費は下記のとおりである。
また固定費については、両製品に個別に発生する固定費はなく、両製品に共通して発生する固定費は190万円である。

	製品A	製品B
1個あたりの販売価格	@2,500円	@2,000円
1個あたりの変動費	@1,500円	@1,400円

製品Aと製品Bの売上高が1:4の割合となるように販売するものとして、製品Aと製品Bの損益分岐点の売上高を求めなさい。

【問題 ②】 解答・解説

STEP1 売上高をSとおき、製品Aの売上高を1/5 S、製品Bの売上高を4/5 SとしてP/Lを作成する。

単位：円	製品A	製品B	全 体
売上高	0.2 S	0.8 S	(1.0) S
変動費	0.12 S	0.56 S	0.68 S
貢献利益	0.08 S	0.24 S	0.32 S
固定費			1,900,000
営業利益			0.32 S - 1,900,000

【STEP1】
製品AとBと
別々に計算

STEP 1-1

・・・製品Aと製品Bの売上高が1:4の割合となるように・・・

売上高を (1.0) Sとおき、製品Aの売上高を $\frac{1}{5}$ S、製品Bの売上高を $\frac{4}{5}$ SとしてP/Lを作成する。

$$\frac{1}{1+4}$$

$$\frac{4}{1+4}$$

$$1 \div 5 = 0.2$$
$$0.2 \times S = 0.2S$$

$$4 \div 5 = 0.8$$
$$0.8 \times S = 0.8S$$

単位：円	製品A	製品B	全体 (A+B)
売上高	0.2 S	0.8 S	(1.0) S

STEP 1-2

・・・製品Aと製品Bの売上高が1:4の割合となるように・・・

【問題 ②】

製品A
1個あたりの販売価格 @2,500円
1個あたりの変動費 @1,500円

製品B
@2,000円
@1,400円

製品A: 変動費率 =
 $1,500 \div 2,500 = 0.6$

∴ 売上高の割合を加味した変動費率 =
 $0.2S \times 0.6 = 0.12S$

製品B: 変動費率 =
 $1,400 \div 2,000 = 0.7$

∴ 売上高の割合を加味した変動費率 =
 $0.8S \times 0.7 = 0.56S$

製品A: 製品B = 1:4 となる
変動比率と固定比率を
“固定費が共通”のため、
工場全体で計算したもの

単位：円		製品A		製品B		全体 (A+B)
売上高		0.2 S		0.8 S	←	(1.0) S
変動費	(-)	0.12 S	(-)	0.56 S	→	0.68 S
貢献利益	(=)	0.08 S	(=)	0.24 S	→	0.32 S

STEP 1



STEP 2 ~ STEP 3

単位：円	製品 A	製品 B	全 体	
売上高	0.2 S	0.8 S	(1.0) S	
変動費	0.12 S	0.56 S	0.68 S	STEP 1
貢献利益	0.08 S	0.24 S	0.32 S	
固定費			1,900,000	STEP 2 ~ STEP 3
営業利益			0.32 S - 1,900,000	

STEP 2 全体の売上高Sについて解く。

STEP 3 全体の売上高Sを製品Aと製品Bに配分計算する。

STEP 1

全体の売上高をSとおき、製品Aの売上高を $\frac{1}{5}S$ 、製品Bの売上高を $\frac{4}{5}S$ としてP/Lを作成。

単位：円	製品A	製品B	全体 (A+B)
売上高	0.2 S	0.8 S	(1.0) S
変動費	0.12 S	0.56 S	0.68 S
貢献利益	0.08 S	0.24 S	0.32 S
固定費			1,900,000
営業利益			$0.32 S - 1,900,000$

STEP 2

全体の売上高Sについて解く。

“損益分岐点の売上高” とは 『営業利益=0』 となる売上高

$$0.32 S - 1,900,000 = 0$$

$$0.32 S = 1,900,000$$

$$S = 5,937,500$$

STEP 3

全体の売上高S (5,937,500円) を製品Aと製品Bに、1:4 となるように配分計算する。

$$\frac{1}{1+4}$$

製品Aの売上高 : 5,937,500円 × $\frac{1}{5}$ = 1,187,500円

製品Bの売上高 : 5,937,500円 × $\frac{4}{5}$ = 4,750,000円

製品A と 製品B に
1:4で配分計算

$$\frac{4}{1+4}$$

以上により、製品Aと製品Bの売上高が1:4の割合となるように販売する、製品Aと製品Bの損益分岐点の売上高 とは、

製品A 1,187,500円

製品B 4,750,000円

である。

○ I級で学習できる管理会計

経常利益を対象にしたCVP分析		営業外費用・営業外収益の取り扱い
最適セールス・ミックスの決定		利益を最大にする複数の製品販売量の組み合わせを決める
予算編成		期首において当期の予算を立てる
予算統制（予算実績差異分析）		期末において予算と実績を比較検討する
事業部の業績評価		事業部、事業部長の評価を行う
業務執行上 意思決定	新規注文引受可否	既存の注文に加えて、新規の注文を受けるかどうか
	部品の自製購入	従来は外部から購入していた部品を有給生産能力を有効利用し自製できないか
	追加加工の要否	追加加工後で販売した方がよいか
	事業部の継続廃止	事業部を継続すべきか、廃止すべきか
	材料の経済的発注量	もっとも材料の在庫費用が小さくなるような発注量は？
戦略的 意思決定	新規投資	新規に設備投資をすべきか
	拡張投資	設備投資の範囲を広げるべきか
	取替投資	古い設備を売却し、新しい設備に取り替えるべきか

○ その他

① 日商簿記Ⅰ級取得によるメリット

② 学習内容のメリット

③ 挑戦する前の注意点

引き続き事務局からのご案内です。

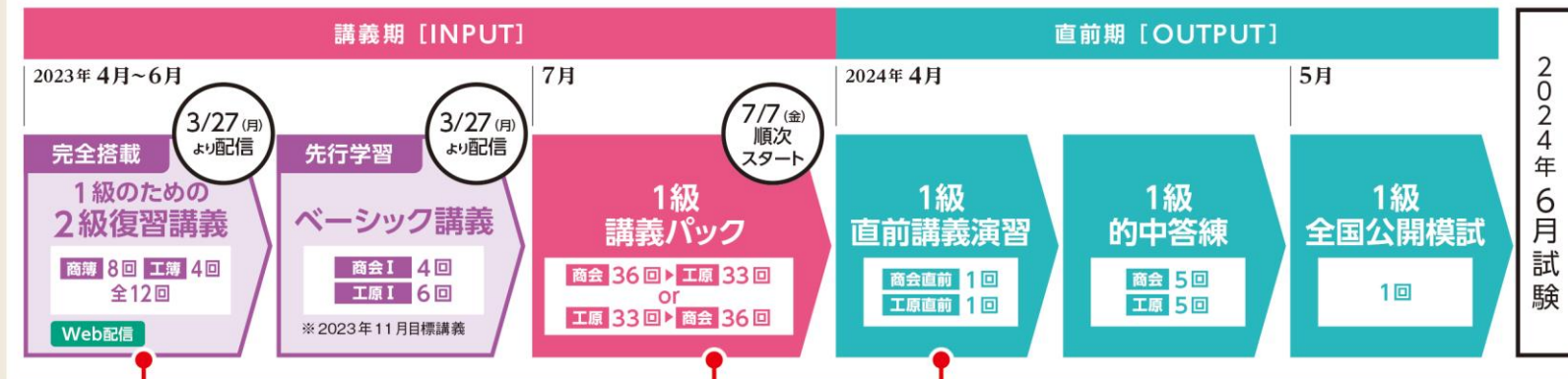
そのあと Q&Aです！



★ 1級合格本科生 1年コース【2024年6月合格目標】

●新カリキュラム 《「収益認識に関する会計基準」などにも完全対応!》 無理のない週2回の講義受講ペース

全94回 [講義・答練時間…2時間45分] 商會：商業簿記・会計学 工原：工業簿記・原価計算 ※カリキュラム・講義回数・講義時間等は変更になる場合があります。予めご了承ください。



Point
1

1級の学習をよりスムーズに!
「1級のための2級復習講義」
(商簿8回・工簿4回/全12回)

Point
2

1級講義パックでは
商會・工原で
科目ごとに
しっかり学習

Point
3

1級直前講義演習では
商會は最新の論点、
工原はポイント復習

詳しくはこちら

⇒ https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/boki_crs_1goukaku_6gatsu_even.html

【 Ⅰ 級 対 策 】

★ Ⅰ級合格本科生

①2023年11月目標⇒ 6カ月コース(6月中旬開講)

②2024年 6月目標 ⇒ 1年コース(7月中旬開講)

★ Ⅰ級アドバンス合格本科生 (学習経験者向コース)

①2023年11月目標 ⇒ 6月中旬開講

I 級対策【体験入学】

★I 年合格コース（2024年6月合格目標）

梅田校	7/15（土）	13：00～15：45	工原講義①
	7/20（木）	18：50～21：35	工原講義①
なんば校	7/16（日）	13：00～15：45	商会講義①

★動画（ホームページより）・・・随時視聴可

I 級商会ベーシック講義 https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/tacchannel/0022QT01110100.html

I 級工原ベーシック講義 https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/tacchannel/0022QT01120100.html

予約優先制・個別受講相談 **【参加無料】**



★ TAC 個別受講相談予約（西日本地区）サイト
<https://www.tac-school.co.jp/west/soudan.html>

関連サイト案内

★TAC 簿記検定 開講講座一覧サイト

https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/boki_crs_idx.html

★TAC 簿記検定 教室講座日程表 サイト

https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/boki_nittei.html

★TAC セミナー/講座説明会/体験入学 案内サイト

<https://www.tac-school.co.jp/guidance.html>

★TAC 検定・資格&仕事紹介セミナー 案内サイト

<https://www.tac-school.co.jp/west/s.html>

★ TAC 個別受講相談予約（西日本地区）サイト

<https://www.tac-school.co.jp/west/soudan.html>

★ TAC 経理実務/税法実務/経営法務講座 サイト

https://www.tac-school.co.jp/kouza_jitumu.html